

金属鑛業ニ於ケル乳兒死亡ノ概況

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/30669

金屬鑛業ニ於ケル乳兒死亡ノ概況

在仙臺 鑛務監督官補 大西清治

一國産業ノ基礎タル労働者ノ衛生状態ニシテ非ナラムカ、國運ノ發展上内、國民勞働力ノ保全ヲ缺キ外、祖國防禦力ノ减退ヲ來スヤ必セリ。最近我國ニ於テモ著シク労働問題ノ朝野識者間ニ論斷セラルルヲ聞ク、或ハ彼等ニ生活ノ安定ヲ與ヘヨト叫ビ、或ハ八時間労働ト賃金ノ増給トヲ以テ資本家ニ迫リテハ、隨所ニ波瀾重疊ノ渦ヲ演ジツツアルヲ見ル、勞資共ニ工業ノ發達ヲ望マバ、何故ニ工場ノ衛生、時ニ労働者ノ衛生問題ヲ、ヨリ深く、ヨリ眞劍ニ之ヲ考究シ以テ彼等ニ眞ノ安定ヲ得セシメザル。余ガ茲ニ秃筆ヲ弄シ本問題ニ就キ之ヲ社會ニ發表セムトスル所以ノモノハ、我國ニ於ケル工業衛生就中鑛業ニ關スル分ノ研究進歩ノ實ニ遅々タルヲ慨シ、特ニ方今労働問題ノ白熱セル際ニ臨ミ、聊カ余ノ觀察愚見ヲ絮說セムトスルニアリ。

乳兒死亡防止策ハ各國共ニ、一ノ重要ナル社會問題トシテ之ガ研究調査ヲ爲シツツアリ、實ニ母體ヲ離レテ現世ノ空氣ヲ呼吸スルコト數日或ハ數旬ナラザルニ、已ニ搖籃ヲ墳土ノ下ニ索ムルモノ相踵グニ至ルガ如キ慘狀ヲ見テハ、吾人最モ早ク之ニ著目シ最モ熱心ニ其ノ原因ヲ探リ、其ノ豫防方法ヲ講ゼザルベキニアラズヤ。

ダーウイン一派ノ乳兒死亡ノ多キ事實ヲ指シテ、是ハ避クベカラザル自然淘汰ナリト唱フルガ如キ愚ヤ、既ニ誤レルノ甚ダシキモノト云フベシ。

金屬鑛業ニ於ケル乳兒死亡ノ概況ヲ述ブルニ當リ、余ハ多ク其ノ比較ヲ日本帝國第三十七統計年鑑ニ探レリ、之ハ統計ナル事實ガ常ニ大數觀察ニ於テ最モ信ズベク、且ツ社會一般ノ状態ノ異レル外國ノ事實ニ比較セムヨリカ優レルモノアルガ故ナリ。金屬鑛山ノ重要ナルモノノミニテモ東北六縣下(仙臺鑛務署管内)ニ其ノ數、百以上ヲ以テ數フル

ヲ得ベシ、之等多數ノ鑛山ノ個々ニ就キテ乳兒死亡ノ如キ煩雜ナル調査ヲ行フハ到底短時日ノ間ニ完成シ得ベキモノニアラザルヲ以テ余ハ昨年四月以來鑛山ト其ノ所在地ノ關係ヲ顧慮シ本調査ニ最モ適セリト認メタル十鑛山ヲ選ビ、主トシテ各鑛山附屬病院ニ就キ本調査ヲ行ヘリ。

一、乳兒死亡率

歐米各國ガ夙ニ乳兒死亡防止策ヲ建テテヨリ年々其ノ効果ヲ擧ゲ著シク死亡率ノ減少ヲ來シツツアルニ反シ、我國ハ數年來其ノ増加ヲ見ルガ如キ、實ニ寒心ニ堪エザル状態ニ在リ。最近ノ五ケ年間ニ於ケル事實ヲ統計年鑑ヨリ摘録スレバ左ノ如シ。

第一表 全國乳兒死亡率

年次	生産數	死亡數	死亡率	年次	生産數	死亡數	死亡率
明治四十五年	一、七三七、六七四	二六八、〇二五	一五・四	大正四年	一、七九九、三二六	二八八、六三四	一六・〇
大正元年	一、七五七、四四一	二六七、二八二	一五・二	大正五年	一、八〇四、八二二	三〇七、二八三	一七・〇
大正二年	一、八〇八、四〇二	二八六、六七九	一五・九	平均	一、七八一、五三三	二八三、五八〇	一五・九

乳兒死亡率ヲ地方的ニ觀察セントセバ、必ず其ノ地方ニ於ケル文化ノ程度、氣候風土或ハ習慣ノ關係ヲ考慮セザルベカラズ。余ノ調査シタル鑛山所在地タル東北六縣下ニ於ケル乳兒死亡率左ノ如シ。

第二表 東北六縣乳兒死亡率

縣名	大正四年	大正五年	平均	縣名	大正四年	大正五年	平均
青森	一八・八	二三・二	二一・〇	秋田	一九・一	二〇・九	二〇・〇
岩手	一七・七	二一・二	一九・五	山形	一八・四	二〇・一	一九・三

原著 大西 金屬鑛業ニ於ケル乳兒死亡ノ概況

一一一

宮城	一五・九	一七・三	一六・六	平均	一七・四	一九・八	一八・六
福島	一四・三	一六・三	一五・三	平均	一七・四	一九・八	一八・六

前表ニ示セルガ如ク東北ニ於テハ福島、宮城ヲ除ク外何レモ全國平均ヨリ高シ、恐ラク文化程度ノ低キ、或ハ氣候風土ノ不適當等ノ原因スル所ナランカ。

而シテ諸種ノ鑛山ニ在リテハ果シテ如何、前述十鑛山ノ内更ニ内外ノ狀況ヲ參酌シ最モ適當ナルモノ五ヶ山ヲ選ビテ調査ヲ行ヒタルニ次表ノ如シ。

第三表 鑛業ニ於ケル乳兒死亡率

鑛山名	大正六年			大正七年			平均
	生産	死亡	%	生産	死亡	%	
A	一四八	三七	二五・〇	一三一	三五	二六・七	二五・九
B	一三一	三〇	二二・九	一五九	三八	二三・九	二三・四
C	六九	一八	二六・一	五七	二二	三八・六	三二・四
D	八〇	四〇	五〇・〇	五五	三八	六九・九	五九・九
E	九六	二九	三〇・二	七九	三三	四一・八	三六・〇
計	五二四	一五四	二九・四	四八一	一六六	三四・五	三一・九

ヲ示ス。只B山ノミガ略東北各縣ノ率ニ近致セルハ恐ラク亞硫酸瓦斯ノ影響ヲ被ラザル爲メニアラザルカ。

二、乳兒死亡病類別調

此等可憐ナル乳兒ハ果シテ如何ナル病魔ノ爲メ其ノ短キ生命ヲ奪ハレツツアリヤ、之ハ第四表ニ示セルガ如ク實ニ其ノ過半數ハ榮養障礙、先天性弱質、肺炎及腦膜炎ナリキ。

前表ノ中B及E鑛山ハ共ニ製鍊作業ヲ行ハザル所ニシテ只E鑛山ニアリテハ極メテ接近セル所ニ他山ノ製鍊事業アリ爲メニ亞硫酸瓦斯等ノ關係ニ於テハ殆ンド製鍊場ヲ有スル所ト異ナラズ、右ノ統計ハ僅々五ヶ山ニ過ギザレ共之ヲ一般死亡率ニ比スレバ甚ダシキ高率ヲ被ラザル爲メニアラザルカ。

第四表 鑛業乳兒死亡病類別表

病名	大正五年		大正六年		大正七年		合計
	男	女	男	女	男	女	
法定傳染病							
麻疹			七	三			一
百日咳							
流行性感胃			一		一		二
肺炎			七		二		九
氣管支加多兒	三		九	八	二	三	六
肺結核							
腦膜炎	七		二		一		三
腎臟炎							
心臟ノ疾患			一		一		二
胃及腸炎	三		四		一		八
營養障害	五		五		五		一五
乳兒脚氣	二		三		二		七
先天弱質	六		四		一		一一
先天徵毒	二		九		二		一三
肝臟ノ疾患			三		八		一一
其他	二		一		一		四
合計	四四	三〇	一〇七	九二	一三三	九五	五〇〇

第五表 全國乳兒死亡ニ對スル比較

原著 大西 金鑛鑛業ニ於ケル乳兒死亡ノ概況

病名	全國乳兒		比	例	病名	全國乳兒		比	例
	死亡數	千分				死亡數	千分		
法定傳染病	六五〇	二・一	二・〇	二・〇	心臟ノ疾患	一,三六一	四・四	一八〇	一八〇
麻疹	二,二八〇	七・四	二二・〇	二二・〇	胃及腸炎	四七,三三八	一五四・一	五八〇	五八〇
百日咳	三,三四七	一〇・九	六・〇	六・〇	營養障害	五,〇八〇	一六・五	二二・〇	二二・〇
流行性感胃	一,〇三一	三・四	八・〇	八・〇	乳兒脚氣	六,〇五五	一九・七	六六〇	六六〇
肺炎	三八,五七四	一二五・五	一三八〇	一三八〇	先天弱質	五七,五二八	一八七・二	一七二〇	一七二〇
氣管支加多兒	二八,一六四	九一・七	六一〇	六一〇	先天微毒	—	—	五六〇	五六〇
肺結核	八五〇	二・八九	四・〇	四・〇	肝臟ノ疾患	—	—	四〇	四〇
腦膜炎	二九,七五五	六・八	一二八〇	一二八〇	其他	八二,六四〇	二六八・九	三八〇	三八〇
腎臟炎	二,六三〇	八・六	六・〇	六・〇	計	三〇七,二八三	一,〇〇〇・〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇

前二表中全國乳兒死亡數ハ大正五年現在ニシテ其ノ營養障害欄ハ年鑑ニハ「胃ノ疾患」トアルモノ及胃及腸炎欄ハ「下痢及腸炎」トアルモノナルガ故ニ、余ノ分類法ト幾分カノ差異アルベシ。

斯クノ如ク鑛業ニ於ケル乳兒死亡ハ、之ヲ全國ノ平均ニ比スレバ、乳兒脚氣ノ三・三倍、心臟ノ疾患ノ四倍強、腦膜炎ノ一・三倍、痲疹ノ三倍弱ニシテ其他肺炎及肺結核ニ於テモ若干ノ高率ヲ示シ、胃及腸炎欄ヲ加ヘ、廣ク胃腸ニ來ル疾患トシテ考フル時ハ、一七〇・六ニ對シ二七〇・〇即チ一・五倍強ヲ示セリ。而シテ全疾患ヲ通ジ營養障害殊ニ多數ニシテ二一・二%ヲ示シ先天性弱質、肺炎、腦膜炎、乳兒脚氣、氣管支加多兒、胃及腸炎、先天微毒等ノ順位ニアリ、就中前四者ハ何レモ一二%以上ノモノナリ、女ノ男ニ比シ先天微毒ニ僅カニ多キヲ見ルモ他ハ一般ニ同率ナリ。

三、死亡者ノ生存期間

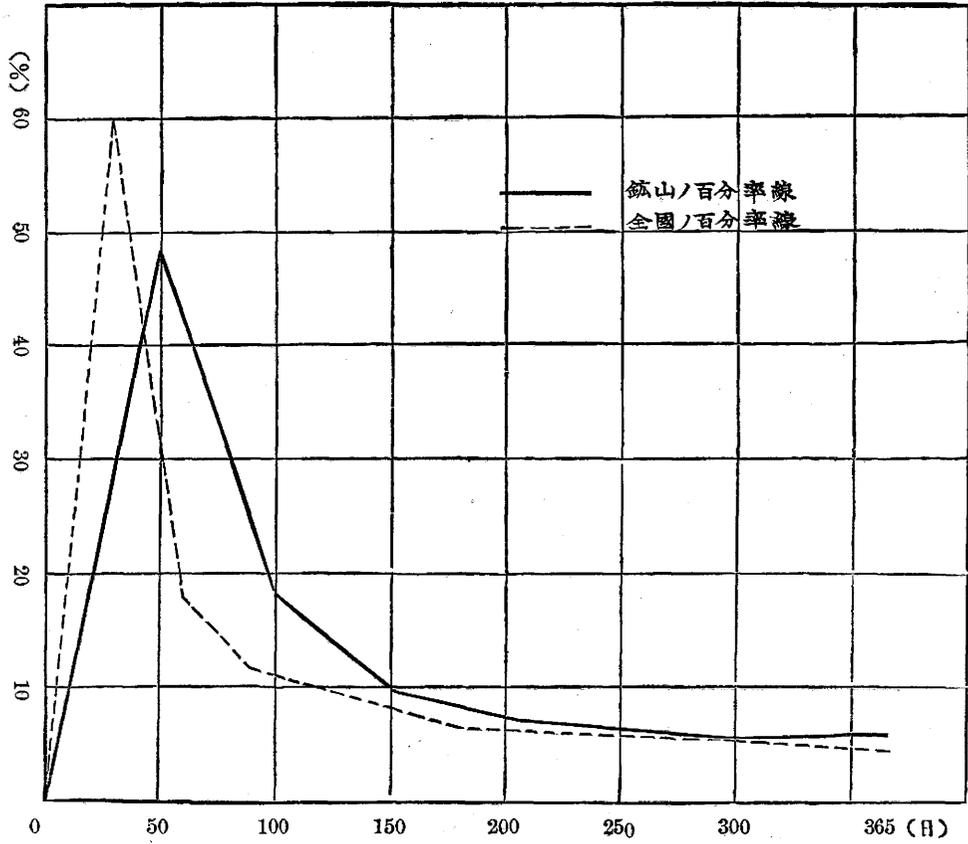
死亡者ノ生存期間、換言スレバ生後幾日目ニ最モ多數ノ死亡者ヲ出スモノナリヤヲ見ムガ爲メ、前調査ト同一ノ材料ヲ用ヒ大正五年―七年及八年ノ少例ヲ加ヘ、生年及死亡年月日ノ明瞭ナル者三七八例ニ就キ、調査ヲ試ミタルニ左表ニ示セルガ如ク、生後五十日間ニ於テ死亡スル者最モ多ク、實ニ全數ノ四五・二%ヲ示ス、其レ以下ハ著シク減少シ男女共ニ大差ナシ。

第六表 死亡者生存期間表

期 間	男	女	計
一―一〇	五二	三八	九〇
一一―二〇	一五	一三	二八
二一―三〇	一〇	九	一九
三一―四〇	五	六	一一
四一―五〇	二	一	三
五一―一〇〇	三五	三三	六八
一〇一―一五〇	二二	一五	三七
一五一―二〇〇	一九	八	二七
二〇一―二五〇	八	一五	二三
二五一―三〇〇	八	一二	二〇
三〇一―三六五	一一	一〇	二二
合 計	二〇九	一六九	三七八

即チ全數ノ二三・八%ハ生後僅カ二十日間内ニ死亡スルモノニシテ之ヲ全國ノ平均二六・九%ニ比スレバ少シク下位ニアリ。全國トノ比較ヲ更ニ明瞭ナラシメンガ爲メ第七表ノ曲線ヲ作レリ。

原著 大西日金屬鑛業ニ於ケル乳兒死亡ノ概況



(第七表)

四、乳兒死亡ノ月別調

更ニ乳兒死亡ノ月別ヲ見ルニ、歐洲ニアリテハ七、八ノ兩月ニ多ク十一月ニ最小ノ數字ヲ表スヲ普通トス、我國ニアリテモ略同様ニシテ大阪市ニテ(明治四十三年)下痢及腸炎ノ病名ノ下ニ死亡セルモノ總計二、一八八(内一、一五一乳兒)ノ内七、八、九ノ三ヶ月間ニ死セルモノ九八三ニシテ大部分ハ乳兒ナリト云フ。一九〇三—一九〇九年平均ノ伯林市ノ統計ニ依レバ最低十一月ノ一五五六ニ對シ、七月二六四一、八月四〇九〇、九月二四三二ヲ示セリ。今鑛業ニ於ケル事實ヲ舉グレバ左ノ如シ。

第八表 乳兒死亡月別表

月別	男	女	計	月別	男	女	計
一月	二八	二〇	四八	一月	二七	三〇	五七
二月	二四	一三	三七	二月	二九	一七	四六
三月	二六	三〇	五六	三月	一七	一六	三三
四月	二一	二〇	四一	四月	二〇	一六	三六
五月	二五	一九	四四	五月	二二	一〇	三二
六月	二四	二三	四七	六月	二二	一〇	三二
七月	二九	二九	五八	七月	二九	二四〇	五三五
合計				合計	二九二	二四〇	五三五

以上ノ如ク大體ニ於テ七、八兩月ニ多ク十二月ニ最少シ、其ノ七八月分ハ全數ノ二一・三%ニ當レリ。

五、乳兒死亡ノ原因

前述ノ如ク大ナル死亡率ヲ表セルハ果シテ如何ナル原因ニ基クヤ、是ハ本論ニ於テモ最重要ナル點ニシテ亦輕々ニ斷定ヲ下シ得ズト雖モ、蓋シ一ノ原因ニ依ルニアラズシテ恐ラク其ノ間ニ相錯雜セル數種ノ原因ノ存在セルモノナ

ラン、余モ一般社會衛生學者ノ説ニ從ヒ暫ク之ヲ論ゼン。

(一)、乳兒保護ノ不完全。

乳兒保護ノ不完全ハ、極メテ一般抵抗力ノ薄弱ナル彼等ヲシテ直チニ罹病率ヲ高メシムルハ明ナル事實ニシテ從ツテ死亡者ノ多キモノトス、余ハ特ニ之ノ點ニ就キ讀者ノ注意ヲ促シタキハ工場ニ於テ乳兒同伴者ノ多キ事實ナリトス。斯クノ如キハ都會ノ工場ニ殆ンド見ザル所ナレ共、工場ト住居ト相接近シ且ツ全家族ヲ擧ゲテ勞働ニ就キ居ル者ノ少カラザル各種鑛山ニアリテハ、家庭ニアリテ良キ保護者ヲ得ザル爲メ可憐ナル乳兒ヲ捕ヘテ之ヲ工場ニ同伴シ、其ノ粉塵ト瓦斯ノ恐ク可キ「メデイム」ノ洗禮ヲ受ケシメ尙且ツ長キ日ヲ工場ニ送り居ルニ非ズヤ。前ニ掲ゲシ全國乳兒死亡ニ對スル比較表ヲ見ヨ、其ノ結核、肺炎ノ多キ、或ハ麻疹ノ多數ナル等此ノ間ノ消息ヲ語り居ルモノト云フベシ。

(二)、住居ノ不衛生。

住居ノ不衛生ハ獨リ乳兒ノミノ問題ニアラズ、廣ク一般勞働者及家族ニ及スベキ大問題ナルガ故ニ一言之ヲ盡シ得ザレバ只其ノ概況ヲ述ベ、如何ニ乳兒死亡ニ原因セルカラ讀者ノ判斷ニ委ネン。

現今鑛山ニ存在セル鑛夫ノ住居トシテハ大略甲、乙、丙ノ三階級ニ區別スルヲ得、而シテ其ノ甲ハ比較的善良ナルモノニシテ内部ニ疊ヲ使用シ一家族ニ二室以上ヲ與ヘ、内外ノ構造又良好ノ部類ニ屬ス、乙ハ五戸乃至十戸建ノ長屋ニシテ一戸多クハ六疊一室ノミ、疊ナク、外壁其ノ他ノ關係ヨリ採光前者ニ比シテ著シク不良ナリ、丙ハ最モ舊式ノモノニシテ所謂「トムネル」長屋ト稱スベキモノ、スベテノ構造不良ヨリ採光ノ悪キ晝間尙燈火ヲ要スル程ナリ甲、乙、丙ヲ通ジ土壁ヲ使用セルモノ極メテ少シ、冬期室内保温上、速ニ其ノ改良ノ要アルモノトス、余ガ嘗テ東北ニ於ケル五十四鑛山ニ就キ鑛夫長屋ノ調査ヲ爲シタルニ、其ノ結果住居人員一人當リ漸ク三ニ疊ナリキ。

(三)、先天的身體ノ虛弱。

前掲死亡病類別表ニ示セルガ如ク出生兒ニ先天的身體ノ虛弱者ノ多キ一般死亡率ニ影響スル所又大ナルモノアリ、之ハ妊婦ノ保護不完全、多産ニアル可ク又酒精、微毒ノ如キ胚種毒ノ影響ノ與テ力アルモノトス、特ニ先天微毒ニヨル死亡者ノ多キ又一考ノ價值アリ。

(四)、營養方法ノ不良。

不完全ナル人工營養ハ消化器病ヲ來シ又一般抵抗力減弱ノ爲メ外界ノ刺戟ニ對スル過敏性ヲ増ス。果シテ鑛山乳兒ガ人工營養ニヨリ保育セラルル者多キヤ否ヤハ未ダ充分ナル調査ヲ行ハザルヲ以テ不明ナレ共、營養障害症ノ斯クノ如ク多數ナルヲ考フレバ彼等ノ營養ガ如何ナル狀態ニアルヤハ思半ニ過グルモノアラシ。

(五)、妊婦、産婦ノ手當不充分。

法ハ産婦ニ對シ分娩後二十五日間ノ就業禁止ヲ要求シツツアレ共、妊婦ニ對シテハ未ダ何等ノ制限ナシ、或ハ産時及分娩後ノ手當不充分ナルコト等共ニ低級ナル彼等労働者ニ對シ、望ム者ノ無理ナルヤモ知レザレ共、少クトモ妊婦ノ就業制限ハ必要ナルモノナルベシ。

六、結 論

斯クノ如キ調査ノ結果ハ余ヲシテ次ノ結論ニ達セシメタリ。

一、金屬鑛業ニ於ケル乳兒死亡率ハ實ニ三・一九%ニシテ之ヲ全國ノ平均一・六・五%(大正五—六年)ニ比スレバ甚ダシキ逕庭アリ。

二、斯クノ如ク死亡率ノ高キハ種々ナル原因ニ依ルベシト雖モ彼等住居ノ不完全、生活ノ不衛生等其ノ最大ナルモノナラン。

三、金屬鑛業ニ於ケル乳兒死亡者ノ疾患ハ營養障害ノ二一・二%ヲ最多ニ、先天性弱質、肺炎、腦膜炎、乳兒脚氣、

氣管支加多兒、胃及腸炎、先天微毒等ノ順位ニアリ。

四、生後五十日間ニ死亡スルモノ最多ニシテ四五・二%ニ當レリ。

五、最初ノ五十日間ニ於テハ第一次ノ十日間最も多ク以下第三次迄ハ漸時下降シ第四次即チ四十一日乃至五十日ニ至ル期間ニ於テ再ビ高率ヲ示ス。

六、一ケ年ヲ通ジ七、八ノ兩月ニ死亡スル者最も多ク全數ノ二一・三%ヲ示ス。

終リニ臨ミ本調査ニ對シ其ノ貴重ナル材料ヲ提供セラレタル各鑛山醫局主任者ニ余ハ感謝ノ意ヲ表ス。

附 言

余ハ紛々タル飛雪ヲ窓外ニ眺メツツ此ノ統計ニ依リテ斯クモ驚ク可キ結果ヲ得タル瞬間、暫シ忘然トシテ筆ヲ投ゲヌ、數年ノ長キニ亘リ全世界ヲ晦冥タラシメタル大戰亂モ遂ニ其ノ終局ヲ告ゲ、萬人等シク平和ノ神ノ慈愛ニ憧ガルル時、其ノ耳朶ニ労働問題ノ警鐘ノ響アルヲ知ラズヤ、兵火ノ慘ニ次ギテ將ニ産業戰ノ實戰期ニ入ラントスルニ際シ、余ハ我が鑛業界ノ労働者ノ生活ニ衛生上斯クノ如キ戰慄スベキ事實アルヲ告ゲ、廣ク醫學者、爲政者ノ熟考批判ヲ乞ハント欲ス。